

文化学園大学で学び、希望の進路を実現した先輩たちの
がんばった“就職活動(就活)ストーリー”をご紹介します。



齊藤 優奈さん

服装学部 服装造形学科 4年
インダストリアルテクニクコース
神奈川県立荏田高等学校出身

内定企業:株式会社オンワード樫山 職種:専門職(パタンナー)

事業内容:紳士服、婦人服、子供服などの企画・製造・販売

文化学園大学を志望した理由

高校時代から洋服をつくることに興味があったので、アパレルに関わることがしたいと思っていました。服飾の分野には専門学校がたくさんありますが、私は大学に進学したいと思っていました。大学で勉強することで将来に幅広い選択ができると思ったからです。服飾系の大学で調べていくと文化学園大学をはじめいくつかの大学を見つけました。高校の同級生に服飾系大学志望者が5人おり、友人からも文化学園大学が服飾に強く、設備も素晴らしいと聞きました。また、姉の友人で文化学園大学に在学している方から、すごく楽しい大学だと聞いていたこともあります。そして何と言っても決め手は高校3年の時に見た大学のファッションショーの感動です。

入学時の将来の仕事に対するイメージは

洋服に対する興味はありましたが、高校時代には実際に服を作ったことがなく、最初はまったくできませんでした。でも授業で教わるうちにいろいろなものを作れるようになり、さらに勉強すればするほど洋服を作ることが楽しくなり、大学1年の頃には既にパタンナーの仕事は何となくイメージするようになっていました。

インターンシップで強くなったパタンナー志望

パタンナーの仕事や実際の現場を確かめたいと思い、アパレル会社でパタンナーの仕事を経験できるインターンシップ研修に臨みました。就職活動を始める前の夏休みに3週間のインターンシップ経験をすることができました。実際に働いてみると仕事の内容が想像と違っていたという話をよく聞くので、どうしても実際に現場を経験し、仕事内容を確認したかったもので、やってみて本当によかったと思っています。工場やいろいろな現場を見たり、実際にスタッフの方と仕事をさせていただき毎日が楽しくて、とにかく早く就職してパタンナーの仕事がしたいと思ったぐらいです。

文化学園大学のインターンシップ制度

業界のトップ企業で実務経験ができる
学部3年生の26.3%の学生が参加
働く力を身につける

多くの人の支えと強い気持ちで就職活動を乗り切る

最初は本当に就職活動できるのか不安でしたが、毎週実施される学内の就職講座で、就職活動の流れに沿った講座があり、実践で履歴書作成やグループディスカッションなどをやることで、就職活動のイメージができるようになりました。さらに応募の段階では就職相談室の方に面接の指導や履歴書の添削をしていただいたりと本当にお世話になりました。履歴書をクリアしたら今度は面接です。なんと最初の面接が誕生日ということもあり、ものすごく緊張していましたが、友人が事前に模擬面接を真剣に手伝ってくれたおかげで何をどのように話せばよいのか分かり、気持ちがすごく楽になりました。今思い返すと本当にいろいろな方の支えで就職活動を乗り切れたのだと思います。こんな私でしたがパタンナー職で決める！ということだけは一度もぶれることなく貫き通しました。

大学の実践的な学び

課題制作は本当に大変でしたが、なんとか学業とアルバイトを両立させることができました。そのおかげでインターンシップの時にも大学の実習や講義で学んだことが役立ち、仕事の内容が初めからよく理解できました。また就職活動の時に実技試験で作図の仕方がわからない課題が出題されたことがありました。本番の試験ですからかなり焦りましたが、とっさに授業で習ったことを応用すればできると考え課題をクリアすることができました。大学での勉強がこのような場面で役立ち、大学の実践的な授業に感謝すると同時に、ちょっと自分を褒めてあげたい気分でした。

高校生のみなさんへ

服装造形学科について言えば、ファッションに興味がある、洋服をつくりたいと思う人は文化学園大学にぜひ来るべきです。でもそのためにはある種の覚悟が必要だと思います。私も入学前に母から、服飾の専門的な大学(学科)に進学して大丈夫?途中で嫌になっても変えられないよと言われてきました。私のように高校まで洋服をつくった経験のない人でもやりたいという意欲があれば目標は達成できます。皆さんが本当に洋服づくりをやりたいのなら、文化学園大学はその期待を裏切らない大学です。